

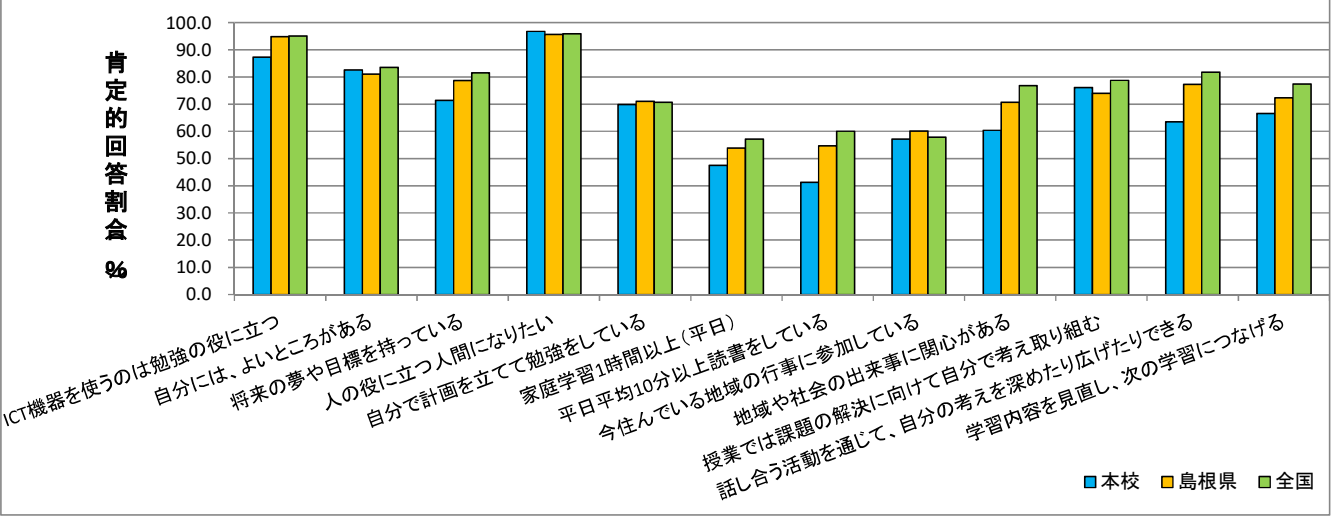
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○送り仮名に注意して漢字を書く選択問題や、要約された文章を選ぶ選択問題は、解答率も正答率も高い。 ●後の問題になるほど選択式でも無回答率が高くなっていることから、解答時間が足りなくなった児童が多いと思われる。 ●全ての問題において、県平均・全国平均に比べて無回答率が多い。 ●情報と情報を関連付けて考える問題についての正答率が低く、無回答率も高い。	・毎月行っている書き取りテストは一定の効果があると言える。日常的に漢字を使う習慣をつけるため、指導者がチェックし、自分で調べて直すようにする。 ・読書活動を一層推進し、活字に慣れさせるとともに、文章の読解力を高める取組を工夫する。 ・主語と述語、原因と結果、問いと答えなどの文法や言い回しなど、ヒントをもらいながら、まずは自分の考えを書くことができるようにする。
算数	○大問1は、無回答率が低いことから、意欲的に取り組んだと思われる。 ●式の意味を考えることが難しく、知りたい数の求め方を式と言葉を使って記述することに課題がある。 ●グラフや表の読取、図形の単元に特に弱さがある。	・答えにたどり着くまでの過程を大切に、子ども同士で説明し合う場面や、使う言葉(算数用語)を指定して説明したり、まとめたりする活動を意図的に多く設定する。 ・算数に限らず、社会科や理科など他教科でも、グラフや表を活用した指導を行う。 ・学習内容の系統性や他教科との関連性を意識したカリキュラムマネジメントを見直す。

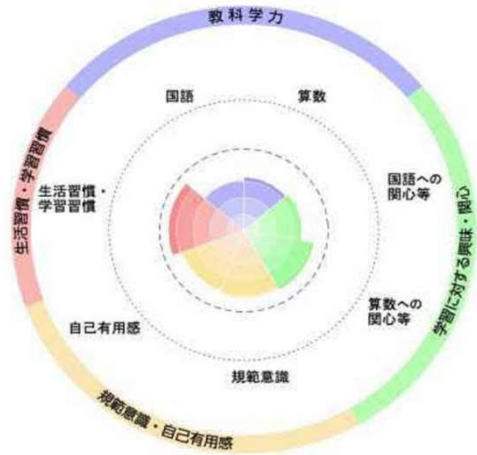
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自己肯定感が高まりつつあり、人の役に立ちたいという優しい気持ちをもつ児童が多い。 ○友達関係や、困りごとや不安に対する大人のサポートについては大変満足度が高く、毎日を幸せな気持ちで過ごしている児童が多い。 ●自分の意見と相手の意見の違いを比較して話し合い、より良い考えにまとめていく経験が足りない。 ●家庭学習の時間、特に読書の時間が圧倒的に短い。	・「聞くこと」と「話すこと」の両方を学習規律として大切にし、誰もが安心して表現する場を保障する。 ・委員会や学級会、学校行事などを通して、学校の課題を見つけ解決するような児童の話し合い活動に力を入れる。 ・「学習の手引き」をもとに保護者と共に個別最適な家庭学習の内容や時間について考えていく。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・「八雲っ子7つの約束」を各教室に掲示し、教職員の共通理解の下、学習規律について指導する。
- ・生活時間や家庭学習について、個人懇談等機会をとらえ、家庭と課題を共有しながら取り組む。
- ・学習の足跡を視覚支援として掲示等で残す。
- ・基礎基本の定着を図る取組を継続・強化する。
- ・学習時間の使い方を工夫し、発展問題やより高度な課題にも取り組めるチャンスを与える。

【受検者数】
58 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。